

収蔵資料展

京都馬借／鉄道錦絵コレクション



馬借風俗再現写真より 山城屋

会期

2001年4月28日(土)～6月3日(日)

開館時間 午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)
休館日 月曜日(4月30日は開館)・5月1日・5月8日・5月22日
観覧料 大人200円(100円)
小中学生100円(50円)
小中学生は第2・第4土曜日は無料
()内は20名以上の団体料金
※上記の料金で収蔵資料展のほか常設の
「現代の物流」展示室もご覧頂けます。



東京高輪真景蒸気車鉄道之図より

物流博物館

〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15 TEL 03(3280)1616 FAX 03(3280)4385 <http://www.lmuse.or.jp>



馬借の馬飾り(亀屋) 赤い布地に龍の刺繍が施されています。 天保11(1840)年



明荷(山城屋)
馬の鞍の両側に取り付けて人や荷物を載せていました。
幕末頃

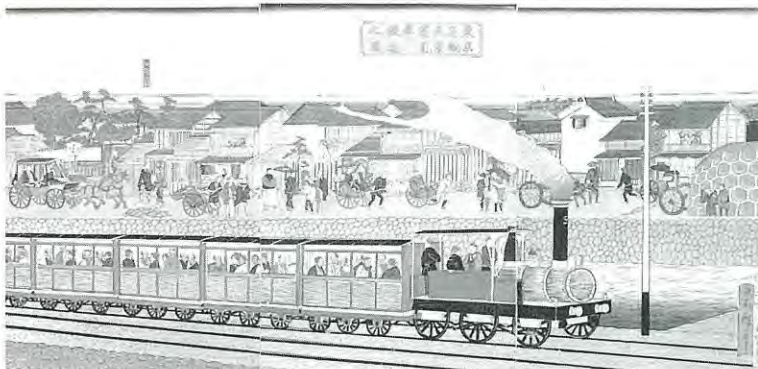
収蔵資料展

京都馬借 鉄道錦絵コレクション

中世から近世において、近畿地方では馬借と呼ばれる運送業者が、馬の背による物資輸送を行っていました。

当館では江戸時代、京都周辺で活躍していた「亀屋長左衛門」及び「山城屋清左衛門」という馬借の資料を収蔵しています。なかでも見事な刺繍が施された馬飾りや、明荷と呼ばれる運搬具などは、京都馬借の姿を今に伝えています。伝馬役を勤め、飛脚と深い関係にあった両家は、明治以後、鉄道が開通すると運送店として鉄道貨物の取扱いを始めるなど、新しい時代に対応して行きました。

今回の収蔵資料展では、江戸時代の京都馬借と、近世から近代へ移り変わっていった彼らの姿を紹介します。



東京高輪真景蒸気車鉄道之図 歌川広重(三代)画 明治6(1873)年



東京名勝高縄鉄道之図 歌川広重(三代)画 沖合には蒸気船、街道には馬車・人力車・旅人が描かれています。

明治5(1872)年、日本で初めて新橋—横浜間に開通した鉄道は、錦絵の格好の題材となり、数多くの鉄道錦絵が登場しました。

鉄道錦絵には鉄道だけでなく、当時の街道輸送の様子も描かれています。当館収蔵の鉄道錦絵の中から、地元の品川や高輪をはじめとする東海道の様子が描かれた作品を中心に、移り変わってゆく明治初期の陸上輸送の姿を紹介します。

